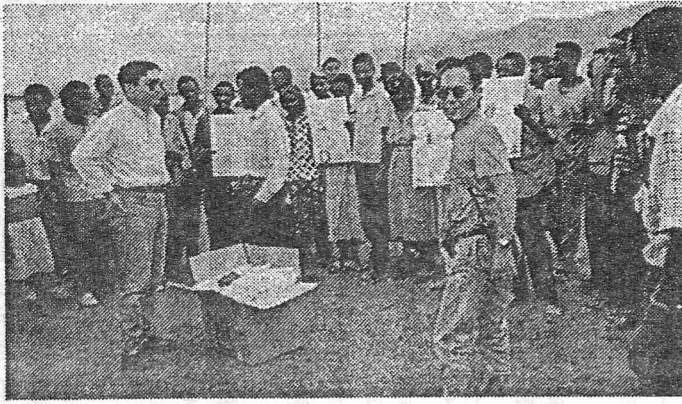


# ルワンダ難民 感謝の返事

帰国の原田助教授紹介

「ルワンダの子供に温かい手を」キャンペーン（読売新聞大阪本社など後援）に寄せられた衣類を隣国ザイルの難民キャンプに持ち参り、大みそかに帰国した岡山市伊福町のノートルダム清心女子大文学部の原田豊己助教授（右）が七日、同大付属小学校の始業式で、児童が難民に送った手紙の返事を紹介した。



届いた手紙を読むルワンダ難民たち（手前左が原田助教授）＝ザイル・カレヘキャンプで

「生活不自由だが、手紙で幸せに」

れ、全国から集まった衣服やタオル、同大生が集めたせつけんを難民にプレゼントし、同小の児童二十五人が

書いた励ましの手紙をフランス語に訳して紹介した。披露された手紙は、激励

たちへ託した六通。「海外留学してフランス語の教諭を目指していたが、内戦で夢は砕かれた。今は塗方に暮れているが、温かい手紙を見て頑張ろうと思っただが、励ましの手紙をもらって幸せに思えた」など感謝の気持ちを伝えている。始業式で原田助教授は「みなさんの優しい心が役に立ちましたと報告。」「内戦が悲惨な結果を招いた。

みなさんはけんかをしない  
で仲良くすることを忘れない  
いで下さいと呼びかけた。  
手紙を書いた五年生の土  
倉佳奈さん（右）は「『今は  
苦しいけど、いつか明るい  
日がくるでしょう。頑張っ  
て下さい』と書きました。  
まさか、返事がくるとは思  
わなかったと話していた。  
原田助教授らは三月三十  
一日まで衣類の提供を呼び  
かけている。送付は、〒62  
兵庫県西宮市西宮浜一の  
三九、日光物産内日本救援  
衣料センター「ルワンダ救  
援係」（06-271-4  
021）へ。」